

(1972年4月)



Ayako Miura

Mr. & Mrs. Miura visit
Chefoo in April 1972
Chefoo

巻頭言でも触れましたが、講演会に参加された姉妹の中に高校時代洞爺丸事故で亡くなった宣教師の一人、アルフレッド・ラッセル・ストーン師から礼拝メッセージを聞かれた姉妹がおりました。参加者一同驚きました。小説の中だけの話しではなく、一人の外国人宣教師のキリストにある愛と、御霊による生きた証しは、私たちの信仰に大きな勇気と力とを与えてくれます。

今年もアドヴェントを迎えクリスマスイベントなど、あわただしい世相になって参りました。

チーフスクールも皆様のご支援によって感謝の内に歩ませていただいております。数日前、高校3年生のS君の進学が決まりました。引き続きお祈りとご支援をお願い申し上げます。良いお年をお迎え下さい。

校長

「私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。」(ルカ2:10)

発行：チーフ・クリスチャン・スクール
〒041-1111

北海道亀田郡七飯町本町6丁目7-3 1チーフキリスト教学館

TEL: (0138)64-4177 FAX: (0138)64-4177

E-mail: chefoo77@ms5.ncv.ne.jp

ホームページ: <http://www5.ncv.ne.jp/~chefoo77/>

郵便振替: 02780-4-78509

※学校見学はいつでも大歓迎です。宿泊をご希望の方は、事前にご連絡下さい。



【教育目標】

聖書に基づく人格教育 次代を担い得る人材の育成 国際化時代に即応する能力を育む

『ワタシノア アゲマス』

「人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛は誰も持っていません」(ヨハネ福音書15:13節)

今年、三浦綾子の代表作である小説『氷点』が、世に出てから50周年を迎えます。

三浦文学館特別研究員である森下辰衛氏は、毎年函館を訪れ、いくつかの教会で「三浦綾子文学講演会」を行って居ります。感謝な事に、その都度チーフスクールに宿泊して頂いております。過日隣接する七飯福音教会に於て、今年度2回目の文学講演会がもたれました。森下氏の長年の研究成果である著書『氷点』解凍を通して大変興味深いお話を承りました。

洞爺丸事故(1954年9月26日、死者・行方不明者1155人に及ぶ、日本海難史上最大の惨事)当時、救命具のひもが切れ感している女性に向かって、3人の宣教師の中の一人が『どうしました?』という、理由を聞いてくれた。『それは困りましたね、私をあげます。あなたは私より若い、日本は若い人が作り上げるのです』と亡くなった。

一方、闘病中の三浦綾子を救ってくれた前川正の言葉も宣教師と同じ信仰の愛

であつたと述べられました。まさに深い孤独と苦悩の中に溺死しようとしている綾子の元へ、前川正から送られた「ことば」は「救命胴衣」であつた。氷点のテーマは「原罪」ですがその中に確かな救いへのメッセージと十字架の愛が語られております。

ヨハネにおいて「ことば」と「信仰」は御霊において一つです。(1:1、1:4)。

冒頭の聖句は、御霊における奇蹟、そして私たちに恵みとして賜わたったキリストの愛であり戒めです。死をも乗り越える力を与えてくれます。私たちはただ「信ぜよ、愛せよ、望めよ」の戒めの下に感謝を持って歩みたいものです。倫理的解釈を超える深い言葉です。

森下氏は「私たちクリスチャンはそれは困りましたね。お気の毒に。では、お祈りしておきますね、さようなら、お元気で!」になつていないだろうか、と指摘されました。

『ワタシノア アゲマス』と言えるには、今、あまりにも遠い「神無き時代」なのでしょうが?このクリスマスの機会にこそ共に祈り、御霊のご臨在を静かに仰ぐ時にしたいものです。

校長 庄司信雄

— 義人ノア —

創世記6章5-7節を見ると「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪い事だけに傾くのをご覧になった。それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を傷められた。そして主は仰せられた。『わたしがお造した人を地の面から消し去ろう。』と言って、大洪水で滅ぼすにしました。」

1. 義の宣教師ノア

しかしそのような中でも、「ノアは、主の心にかない... 正しい人で... 全き人であった。ノアは神と共に歩んだ。」と9節にあります。

そこで神は、ノアとその家族を大洪水から救うため、3階建の巨大な箱舟を造り、さらにその箱舟に汚れない動物と鳥とをつがいにして入れるよう命じ、ノアは「全て主が命じられた通りにした」と6章22節と7章5、16節に記されているのを見ます。

またベテロの手紙第二2章5節を見ると、「義を宣べ伝えたノア」とありますので、ノアは周囲の人々に、神は大洪水をもって、この地を滅ぼそうとしています。そこで罪を悔い改めて大洪水に備えるようにと勧めたのでした。また箱舟を造ることによって、その危機が差し迫っている事を警告しましたが、誰一人これに耳を貸す者もなく、間もなくやってくる大洪水に何の備えもありませんでした。

しかし神の御言葉は真実で、箱舟が完成し、ノアの家族と各動物がつかいとなって箱舟に入り終わるや、恰も天の窓が破れたかの様に大雨が降り始め、それが40日40夜に及び、遂に周辺の日々まで

が埋もれてしまう程に至り、生きとし生けるものはみな死に絶えてしまいました。ただ神の御言葉を信じて箱舟に入ったノアとその家族と動物たちだけが救われました。どこまでも御言葉に従順な信仰が、救いの祝福をもたらしたのです。

2. 酒に溺れたノア

ところが、ノアは大洪水から救われ、さらに神様から、今後大洪水によって地が滅ぼされる様な事はしないとの素晴らしい恵みと全世界の民の基となるとの新たな契約を与えられた後(9章11、15節)、21節を見ると、「ノアはぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になっていた」と記されているのを見ます。何という醜態でしょう。主からその信仰と生活が称賛される程であったノアが、どうしたのかと思わせる変わり様です。

酒は魔物で、理性を失わせ、良心も羞恥心もマヒさせて仕舞います。時には家庭を崩壊させ、また今日大きな社会問題となっている飲酒運転等、人の命を殺める事も少なくありません。

さらにノアは自分の醜態を息子に見られ、これを告げ口されると、怒ってその子とその孫々まで呪うという、親としてどうしてそれほどまでかと思われる言葉を使います(25節)。

確かに洪水が終わるまで緊縮の連続であったノアに、家庭という人の目には隠れた場でのホッとした気の緩みから飲んだ酒。この国に「好神魔多し」という諺がありますが、人は何か大きな事をなし終えた最後の後が、最も危険だと教えられます。パウロは「ですから、立っているとと思う者は倒れないように気をつけなさい」(コリント第一10章12節)と戒めています。互いに気をつけて参りたいものと思います。

(品田 与志夫)

「キリストのこぼを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌により、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」(コロサイ3章16節)

チーフ・スクールで音楽などを教える働きを始めていただいて10年余りが経ちました。音楽大学を卒業して函館に戻り、数年の後、チーフ・スクールの音楽教師としての道が開かれ、教師としてのあり方をも考え、また周りの先生方に教えていただきながら、これまで1対1あるいは少人数の生徒達を相手に教えてきました。その中で数多くの恵みや祝福が与えられて来たことに、心から感謝しております。

クリスチャンスクールであるチーフ・スクールでは、毎朝礼拝があり、賛美と祈りが捧げられ、聖書のみことばが力強く語られています。私自身も週に1度礼拝の中でメッセージさせていただく恵みに与っています。メッセージを語っている、単に一方的に教えるということではなく、自らがみことばから教えられることがたくさんあります。

音楽の授業に關しても、これまでの卒業生や在校生の中にも、歌やギター、ドラム、ピアノなど様々な音楽の賜物があり、チーフ・教会での賛美の奉仕に力を注いでいた生徒達もいます。特にクリスマスや入学式、卒業式などの行事の時にもヴォーカル、ギター、ドラム、ピアノなど生徒達が主体になってバンドを作り、音楽の時間にも練習し、他の先生やスタッフの方々、また幼稚科の先生達にも参加していただき、ヘンデルのハレルヤコーラスを原語(英語)で合唱したこともあります。また、年に一度、主日に函館近郊の教会の礼拝に参加し、チーフ・スクールの様子についてお証しする「チーフ・サンデー」の時にも同じ様に、生徒の個人的な証しと共に、教師・生徒と一緒に賛美演奏もしています。

このように私たちの思いや賛美や祈りを喜んで受け入れて下さる神様に向かって、感謝にあふれて心から歌うことができることは何と幸いです。なことであるかを思い知らされています。

「主よ。私は、あなたのおられる家と、あなたの栄光の住まう所を愛します。」(詩篇26章28節)



神様を中心におられ、私たちを愛して下さる方の栄光が住まう場所の奉仕者として、愛と謙遜と祈りをもってチーフ・スクールの働きに忠実に仕えていきたいと願っています。主にある家族として共に活動できることは、何にも代え難い恵み、祝福です。一人一人の心の中の不安や悩み、問題など全てをご存知だと、それらを解決し、導き、祝福して下さる主の御手にお委ねし、果たすべき役割を担っていきたく願っています。

「神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。」(IIテモテ1章7節)

教師・音楽賛美担当 関 悌(ピアニスト)